

清見(きよみ)

登録年月日：昭和54年6月29日

(タンゴール農林1号)

育成者：西浦昌男 七條寅之助
上野 勇 岩政正男

来

木原武士 山田彬雄

吉田俊雄 *岩崎藤助

歴：「宮川早生」と「トロピタオ
レンジ」の交配珠心胚実生

特性

わが国のカンキツ育種が世に出した最初のタンゴール（ミカンとオレンジの雑種）である。

昭和24年に園芸試験場東海支場（現果樹試験場興津支場）で「宮川早生」と「トロピタオレンジ」を交配した雑種である。昭和38年に初結果した。当初雑種実生になった果実は100g前後の小玉であったが、年を経るにつれて大きくなった。

昭和44年から府県の試験場の系統適応性検定試験および特性検定試験に付された。昭和54年6月29日に農林水産省の新品種として「清見」と命名、タンゴール農林1号として登録公表された。種苗法施行前の品種である。

■栽培特性

樹勢は中。幼木時期には枝は立ち気味であるが、結果し始めると開張し、なり枝は下垂する。実生後40年だが、トゲの発生はない。葉の大きさは中で、葉肉が薄いためか葉身が波うつのが特徴である。

花は小さく、葯が退化し花粉は全くない。メシベは湾曲し、花卉は落下しにくい。

■果実特性

果実は扁球形で平均200gであるが、結果量が多いと小玉になり、少ないと300gを越す大玉となり、玉揃いはよくない。果面は黄橙色で比較的滑らか。果皮は3～4mmの厚さで、オレンジの香りがあり、はく皮はやや難である。果肉は濃橙色で、柔軟多汁、じょうのうは薄い。糖度は12～13%、酸は1%前後で、風味は絶佳。花粉がないので無核だが、他品種を受粉すれば少量の種子を生じる。単胚である。生食用だけでなく果汁適性もある。2月下旬～3月上中旬に収穫し、初夏まで出荷する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

トリステザウイルスシードリングイエローズの強毒系統を保毒しているが栽培上の実害は生じていない。そうか病には抵抗性があり、かいよう病にも強いが、花卉が落ちにくく、これに灰色かび病が発生するので要注意。

単為結果性は強く無核果を産するが、受粉すると種子を生じ大果となって品質が劣悪化するので受粉樹を置かないこと。

■地域適応性

12月よりも2月～3月に採収した果実の方が格段に美味である。果実が樹上で越冬するには冬が温暖な地域でなければならぬ。全国一の産地佐賀県では、冬季のビニル被覆で霜を防ぎ優品を産している。熊本の芦北では果実に紙袋をかけ鳥害を防いでいる。

■育種親としての重要性

本品種をはじめ数種類のウンシュウミカンの雑種に葯退化を発見したとき、筆者は喜びにふるえた。たねなし品種育成の決め手になるからである。「清見」は、その上、単胚で、育種の母品種として打ってつけである。21世紀のカンキツ品種は「清見」から生まれる。「南風」や「清峰」もそうだし、話題の「デコボン」も清見の子である。民間育種家に「清見」の子孫を育てることをすすめたい。

(岩政正男)